

学会賞委員会

第 84 期 学会賞委員会

平成 19 年 02 月 24 日  
運営委員会会議資料

第 84 期（平成 18 年度）日本機械学会熱工学部門  
学会賞委員会 活動報告（案）

本年度の学会賞委委員会の活動は以下の通りであった。

- 6 月 20 日 学会賞委員会委員の選出および依頼の完了。
- 7 月 20 日 学会ホームページへの学会賞公募情報の掲載および会長から部門長への学会賞推薦依頼を受けて、部門運営委員会委員、学会賞委員会を含む部門所属委員会委員長・幹事に学会賞（論文賞・奨励賞）推薦候補の推薦を依頼した（締切日は 8 月 9 日）。
- 8 月 10 日 8 月 9 日の推薦締切日までの推薦件数が少なかったことと IHTC 開催と時期的に重なっていたので、締切日を 8 月 22 日まで延長して、学会賞候補の推薦を学会賞委員会委員に再度依頼した。
- 8 月 26 日 8 月 22 日の推薦締切日までに、論文賞候補 7 件、奨励賞候補 3 件の推薦を頂いた（参考：昨年度は論文賞 5 件、奨励賞 4 件）。推薦頂いた全ての候補に対して、審査関連資料をまとめ、学会賞委員会委員へ二次審査を依頼した（締切日は 9 月 1 日）。二次審査は別紙の方法によった。また、各賞の二次審査対象者に対して、二次審査段階であることを付記して、推薦書類（案）の作成および必要資料の提出の依頼を行った。
- 9 月 5 日 学会賞委員会委員による二次審査の結果を集計し、その結果を各委員に送付してメールにて審議を行った。その結果、論文賞推薦候補 3 件および奨励賞推薦候補 2 名を決定した。
- 9 月 7 日 二次審査によって決定した論文賞および奨励賞推薦候補者の推薦書類を作成した。
- 9 月 8 日 学会賞委員会の活動状況および論文賞・奨励賞推薦候補者決定に至るまでの経緯について部門長にご説明し、部門長の承認を頂いた。同日、部門長の承認印を頂いた正式推薦書類を学会本部へ提出した。

（注）本年度の学会賞委員会の活動は上記でほぼ終了したが、今後の課題として、推薦作業を通して、運営委員等の部門関係者からの第一次推薦件数を増やす方を検討する必要がある。なお、方策のひとつとして各支部から選出された運営委員で協議して頂いて、各支部より最低 2 件（例えば、論文賞と奨励賞推薦候補を 1 件ずつ、あるいは論文賞と奨励賞推薦候補のいずれかを 2 件）ご推薦頂くことを義務化するなど考えられる。

以上

第 84 期（平成 18 年度）日本機械学会 熱工学部門 学会賞委員会 <二次審査方法>

(1) 審査項目

- ①独創性
- ②学問的又は技術的な発展性
- ③機械工学または広く産業社会への貢献度・有用性
- ④信頼性
- ⑤論文としての完成度

(2) 配点

- ①から⑤の各審査項目について、それぞれ以下のように採点して下さい、  
特に優れている場合：2点  
優れている場合：1点  
普通：0点

(3) 具体的評価事項

2次審査評価シート内の①独創性、②学問的又は技術的な発展性、③機械工学または広く産業社会への貢献度・有用性の三つの項目に関しては、具体的に評価した点などのコメントを簡単に結構ですからご記入下さい。なお、④信頼性、⑤論文としての完成度に関しては、採点のみで結構です（具体的評価事項の記入は不要）。

(4) 採点方法及び推薦順位付け

皆様からの2次審査の評価結果を集計して、得点順に推薦順位案を委員長と幹事とで提案する。

(5) 推薦順位の承認

メールによる審議で、推薦順位をご承認頂き、最終決定とする。

以上

## 第 84 期 学会賞委員会委員長提案

学会賞委員会委員長 小山 繁（九大）

1. 学会賞委員会で取り扱う賞の種類（詳細は<http://www.jsme.or.jp/menu13.htm> 参照）

- (1)日本機械学会賞（論文）
- (2)日本機械学会賞（技術）
- (3)日本機械学会賞（技術功績）
- (4)日本機械学会奨励賞（研究）
- (5)日本機械学会奨励賞（技術）
- (6)日本機械学会教育賞

2. 学会賞委員会の課題

委員会として相当の努力をしている所ではありますが、近年、論文賞・奨励賞などの学会賞推薦候補者の推薦件数は必ずしも多くございません。このことは、日本機械学会内での熱工学部門の弱体化を招き、部門構成会員の研究活動に支障を来す危険性を含んでおります。このような状況に陥らないためにも学会賞候補者の推薦件数を増やす抜本的方策を考える必要があります。

### 3. 具体的方策の検討

上記の課題に対する具体的方法として以下のようなことが考えられます。

(1) 運営委員は全員、それぞれ原則最低2件をご推薦頂くことを運営委員の主要タスクのひとつとして位置付けて頂く。

(注) この方法に依りますと推薦件数が多くなり過ぎることが予想され、その後の二次審査に相当の時間を要することとなり、委員会として二次審査を短期間に終了することができなくなる恐れがある。

(2) 各支部から選出された運営委員で協議・検討して頂いて、各支部より原則最低2件をご推薦頂くことを運営委員の主要タスクのひとつとして位置付けて頂く。

(注) この方法に依りますと、各支部の複数名の運営委員の合議制で推薦されるので、適正な推薦件数が確保でき、その後の二次審査もスムーズに実施できる。

### 4. 具体的方法の提案

以上より、以下の方法を提案致します。

各支部から選出された運営委員で協議・検討して頂いて、各支部より原則最低2件（例えば、（例えば、論文賞，技術賞，奨励賞等からいずれかを2件）をご推薦頂くことを運営委員の主要タスクのひとつとして位置付けて頂く。

ご検討のほど宜しくお願いします。